

河曲地区地域づくり協議会

広報 かわの

令和6年3月31日 第16号

第二期（2024～2027）

河曲地区地域計画を策定

第二期地域づくり計画案、市からOK

令和6年4月から4年間、河曲地域づくり協議会としてどのような活動を行なっていくかについて、担当の市役所協働課へ提出していた活動計画案にOKが出ました。新年度4月からはこれに沿って活動をすすめて参ります。

地域づくり活動は令和2～5年が第一期として始まり、今回は第二期になります。ここでは、その発進の前に、地域づくりの基本的な事柄について再確認しておきたいと思います。

地域づくりって何のこと？

平成24年に基本条例ができ、ついで平成31年4月に鈴鹿市地域づくり協議会条例が制定されました。その目的は、各協議会と行政が対等な形のもとに、みんながまちへの関心や愛着を持ち、お互いに尊重し、学び、つながり、支え合いながらその地域を活性化することです。

地域づくりで大切なのは？

その地域の実情や特性を一番よく知る住民みんなが、地域と向き合って理想の姿を考え、実現に向けて取り組むことです。

鈴鹿市の「地域づくり」の定義

ということから、鈴鹿市の「地域づくり」は条例の文言に依れば、「同じ地域に住む住民や自治会、あるいは各種団体等が連携し、知恵を出し合い、地域の個性を活かして、その地域をより住みよい地域にするために活動すること」となっています。

発端は北海道の夕張市

北海道の夕張市はある時期、地域産業の停滞や人口の激減により財政が逼迫し、自治体自体の崩壊の危機に瀕しました。

そこで編み出された策が、市が行っている行政機能の一部を市民の手にゆだね、財政負担を軽減し、自力でやれる所はやってもらうという夕張方式の自治でした。

この場合、夕張市の対応は「限界まで来てからようやく動いた」ことが問題でした。

こうした自治体の財政課題は夕張市に限らず、どこも課題として抱えています。ポイントは、まだ元気なうちに次の一手を打てば、夕張とは異なり、余裕でそうした行政課題など克服可能ということです。

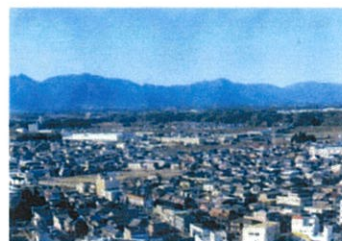
現下の背景と課題

今、私達が直面している課題は、

- ①少子高齢化の進行です。人口減少や少子高齢化により、地域の人口構成が変化、労働人口の減少、結果として地域の活力が低下しています。

河曲地区地域計画

2024年度～2027年度



河曲地区地域づくり協議会

2024年3月

②コミュニティの希薄化です。昔は「向こう三軒両隣」など身近な助け合いがありました。近年はプライバシー保護や暮らしの価値観の多様化、都市化による生活様式の変化等により地域の一員という感覚が希薄化してきています。

行政の背景と課題

今、鈴鹿市が直面している課題は、

- ①厳しい財政状況です。働き手の減少により税収の減少が予想される一方、高齢化に伴う医療や介護等の社会保障費が増加し、財政状況が厳しくなり、結果として行政サービスへの影響が懸念されています。
- ②公共施設の同時多発的な老朽化です。高度経済成長期の終わりから50年近く経った今、当時整備された公共施設等が老朽化、同時多発集中的な修繕や建替、解体の時期を迎えています。限られた財源の中で、いかに行政サービスの維持と施設整備を図っていくかが難問です。

「継続と深化」 今期地域計画策定の基本姿勢

この広報16号が回覧されて間もなく、皆様のもとに「河曲地区地域計画」本編16頁冊子が届く予定です。

皆様には本編くまなく目をとおしていただけると幸いです。今回の計画策定にあたっては「これまでの活動の継続と深化」を基本姿勢としました。それは、この4年間の活動を振り返ると、コロナを挟んでいたものの、そこにはいつもの元気な河曲地区があったからです。

前回策定した2020～2023活動計画は、そもそも第一回目であったため、市が示した策定手順に則して手探り状態から発進しましたが、幸い河曲にはそれ以前からの諸団体による活動が活発になされていて、特に慌てる事なく対処できました。

今回は第二期であり、過去4ヶ年の事業全般を点検評価し、取捨選択し、あるべき事業を更に展開させていくという方向性のもとに策定作業を行いました。

その結果、これまでどおりの普段着の河曲であることが河曲の将来につながる、鈴鹿市の懸念にも十分に対処できる、という認識でみんなが一致しました。

新地域計画書は、一頁を半裁書きにしたうえで諸活動を写真で示す事項を増やし、次のステップに資するよう図りました。

第二回 伊勢国分寺まつり 2024

第二回伊勢国分寺まつり

令和6年3月3日、国分町にある鈴鹿市考古博物館の主催により「伊勢国分寺まつり2024」が開催されました。昨年、盛大に行われたまつりを引き継いだ第二回のおまつりです。風は強かったのですが、晴れ上がって気持ちよく歩けました。

会場は内外二つあって、一つが考古博物館内での特別講座と特別展示でした。お日柄にあわせた雛人形がみんなを迎えて綺麗でした。勾玉作りや鈴鹿墨書道の展覧会もありました。

野外の広い歴史公園では、昨年と同様、好評だった各種の体験講座がありました。おもなものに火起こし、草木染、糸掛け、似顔絵描き、凧づくり、そして天平衣装の試着が、各テント会場で進んでいました。

後方支援

おまつりには、下記の十個人団体企業のみなさんの協賛を得ました。

AGF鈴鹿、清水清三郎商店、ヒロモリ、生川倉庫、三昌運輸倉庫、オリオンプラス、アトリエアリス、SOUTEN、YOSOEMON、Makko、

そして鈴鹿市観光協会、鈴鹿市考古博物館サポート会、国分町自治会、および河曲地区地域づくり協議会からは人的支援等を通じた協力がありました。出前キッチンカー四台も賑わっていました。

当日午前の模様



会場入口での「おもてなし」、AGF提供の紅茶バックを先着1000名限定で配りました。担当：地域づくり役員一同



スタンバイするキッチンカー4台 午前9時11分撮影



ピンク・地域づくり、黄緑・サポート隊、緑・国分町自治会、
橙色・まつりスタッフ、の皆さんが支えて下さいました。



開場まえのひと時、国分町のみなさんお手製の太く厚い孟宗竹
のコッポリを揃えて、童心に帰って挑戦、これは楽勝か！？



竹馬は足場に乗る迄が勝負、写真では二人とも乗り切っている
ように見えますが、このあと何歩歩けたかは・・・



凧つくり、糸は重心より少し上で、左右は偏りなく均等に括り
付ければ、凧は気持ちよく大空に吸い込まれてゆく。



草木染。講師は大杉淳先生。伊勢国分寺まつりのハイライトは
天平衣装に身を包んだ国司および随従武官女官の巡行ですが、
その時代考証から衣装の縫製、手もち装身具の制作まで、全て
を大杉先生が手がけられました。大杉先生あつての伊勢国分寺
まつりと言えましょう。



火起こし、勾玉つくり、天平衣装、これらが文化伝承に昇華。



河曲地区の今

河曲地区の人的実勢

先日、知り合いの方から河曲の人的実勢、たとえば町別世帯数とか年代層別数、あるいは要援護者数、児童生徒数など判れば知らせてほしいとの話がありました。

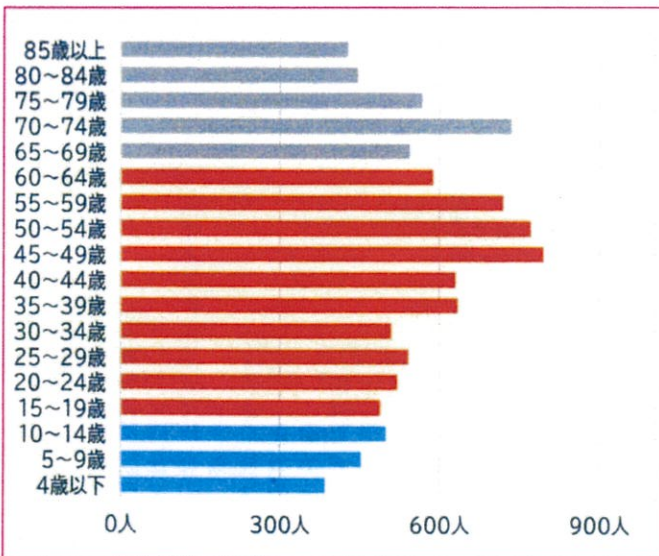
■鈴鹿市・河曲地区人口（令和5年12月現在）

鈴鹿市 195,589人
河曲地区 10,091人

■鈴鹿市・河曲地区世帯数（令和5年12月現在）

鈴鹿市 89,140世帯
河曲地区 4,545世帯

■河曲地区年齢別人口構造（令和4年9月現在）



■河曲地区の将来人口（今後30年間）



■河曲小学校児童数の今後15年推計

令和6 令和11 令和16 令和21
445名 → 370名 → 359名 → 329名 (-26%)

■神戸中学校生徒数の今後15年推計

令和6 令和11 令和16 令和21
747名 → 734名 → 676名 → 516名 (-31%)

■認知症高齢者数

河曲地区 300名（対人口比 2.97%）

■要介護認定者数

河曲地区 435名（対人口比 4.31%）
（内訳）

要支援1	72名	要支援2	51名
要介護1	97名	要介護2	71名
要介護3	45名	要介護4	59名
要介護5	40名		

■後期高齢者数

河曲地区 1441名

■河曲地区要援護登録世帯数

65歳以上ひとり暮らし世帯 290世帯
75歳以上ふたり暮らし世帯 397世帯

■地区別詳細世帯数・人口（令和5年12月現在）

町	世帯数	人口	男	女
河田町	174	397	190	207
野辺町	513	1059	546	513
竹野町	912	1902	970	932
山辺町	172	329	144	185
木田町	362	830	430	400
国分町	352	894	439	455
十宮町	1478	3320	1589	1731
須賀町	573	1337	672	665
采女が丘	9	23	11	12
計	4545	10091	4991	5100

河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』第16号 令和6年3月31日 発行
発行責任者 河曲地区地域づくり協議会 事務局長
事務局 河曲公民館内「地域部屋」 電059-390-1295